

全国各地の先生が一堂に会し、活発に意見交換！

NUMOが行っている「教育支援事業」の1年間の総括として、3月5日（日）に「2022年度 エネルギー環境教育『全国研修会』」を開催しました。

日本科学未来館で行われた全国研修会では、「高レベル放射性廃棄物の地層処分を授業でどのように取り上げるか」をテーマに、全国各地の先生方から、授業研究やその実践内容など、14件のご報告をいただきました。当日は対面で約150名、オンラインで約20名の先生方にご参加いただき、教育現場の視点から熱のこもった議論が交わされました。

報告内容の一部をご紹介します

探究テーマとしての高レベル放射性廃棄物

→社会人を交えたグループを構成して「高レベル放射性廃棄物の処分を進めるにはどうしたら良いか？」について探究する、教科横断型授業の実践

快適に過ごす着方と住まい方からエネルギーについて考える

→小学5年生家庭科の授業における「エネルギー」の視点を取り入れた授業の実践

放射線教育を推進・充実させる教材の有効性とその課題

→放射線について学べるよう開発した「かるた」や「すごろく」を使用した授業の実践



報告の様子



コーディネーターを務めた先生方によるまとめ

教育支援事業 とは？



NUMOは、社会的な課題の一つである「高レベル放射性廃棄物の最終処分」について、学校の授業で取り扱っていただくことを目的とした授業研究（学習指導要領案作成、教材開発等）など、自発的な先生方の研究活動を2013年度から支援しています。2022年度は17研究会を支援しました。

具体的な各研究会の活動については、「各年度の活動報告」をご覧ください！



https://www.numo.or.jp/eess/study/active_report.html



教育の 専門家にお伺いしました！

京都教育大学 教育学部
山下宏文 教授



エネルギー環境教育の大切さ

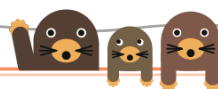
～ 持続可能な社会におけるエネルギー利用のあり方を考える ～

2023年3月5日（日）に東京お台場の日本科学未来館で、NUMO主催の「エネルギー環境教育『全国研修会』」が開催されました。エネルギー環境教育に取り組んでいる小学校、中学校、高等学校の教員の方々、大学や関連機関の方々が集まり、エネルギー環境教育の実践やカリキュラムの開発などについて報告や意見交流が行われました。この研修会は特にエネルギー環境教育における「地層処分」の扱いに関することが大きなテーマとなっています。

地層処分の問題は、現在の社会が抱える重大な課題です。ですから、教育においてもしっかり取り上げ、児童生徒にも適切に考えてもらうことが必要です。しかし、地層処分の問題だけを取り扱うのではなく、エネルギー環境教育全体の中に、原子力発電とともに地層処分の問題を明確に位置づけて扱っていくことが重要です。

この研修会に参加する方々は、エネルギー環境教育にすでに取り組まれている場合がほとんどですが、報告内容を見るとエネルギー環境教育として地層処分の問題を明確に位置づけた実践が増えてきたように思います。そうした実践を広げていくことが大切だと思います。

エネルギー環境教育は原子力発電推進のための教育であってはなりません。エネルギーの選択者育成という観点から、原子力発電や地層処分の問題をしっかり扱っていくことが求められているのです。



「第4回 私たちの未来のための提言コンテスト」の表彰式を開催！

同日、提言コンテストの表彰式を開催しました。「どうしたら、高レベル放射性廃棄物の課題を多くの人が自分ごととして考えるようになるか？あなた（たち）は何をしますか？」というテーマで今年度は22校から358編の提言をいただきました。中高生部門と大学生以上の部門に分け、最優秀賞は2名、優秀賞は5名、学校賞は5校が受賞しました。



賞状を手にした受賞者たち

提言コンテストの受賞提言集（作品）、表彰式の模様（映像）はこちら

<https://www.numo.or.jp/topics/202223031414.html>

